

新潟県立大学北東アジア研究所開設記念セミナー
第1回 「変化する北東アジア経済社会情勢と日本」

中国の経済情勢と課題

2023年6月21日

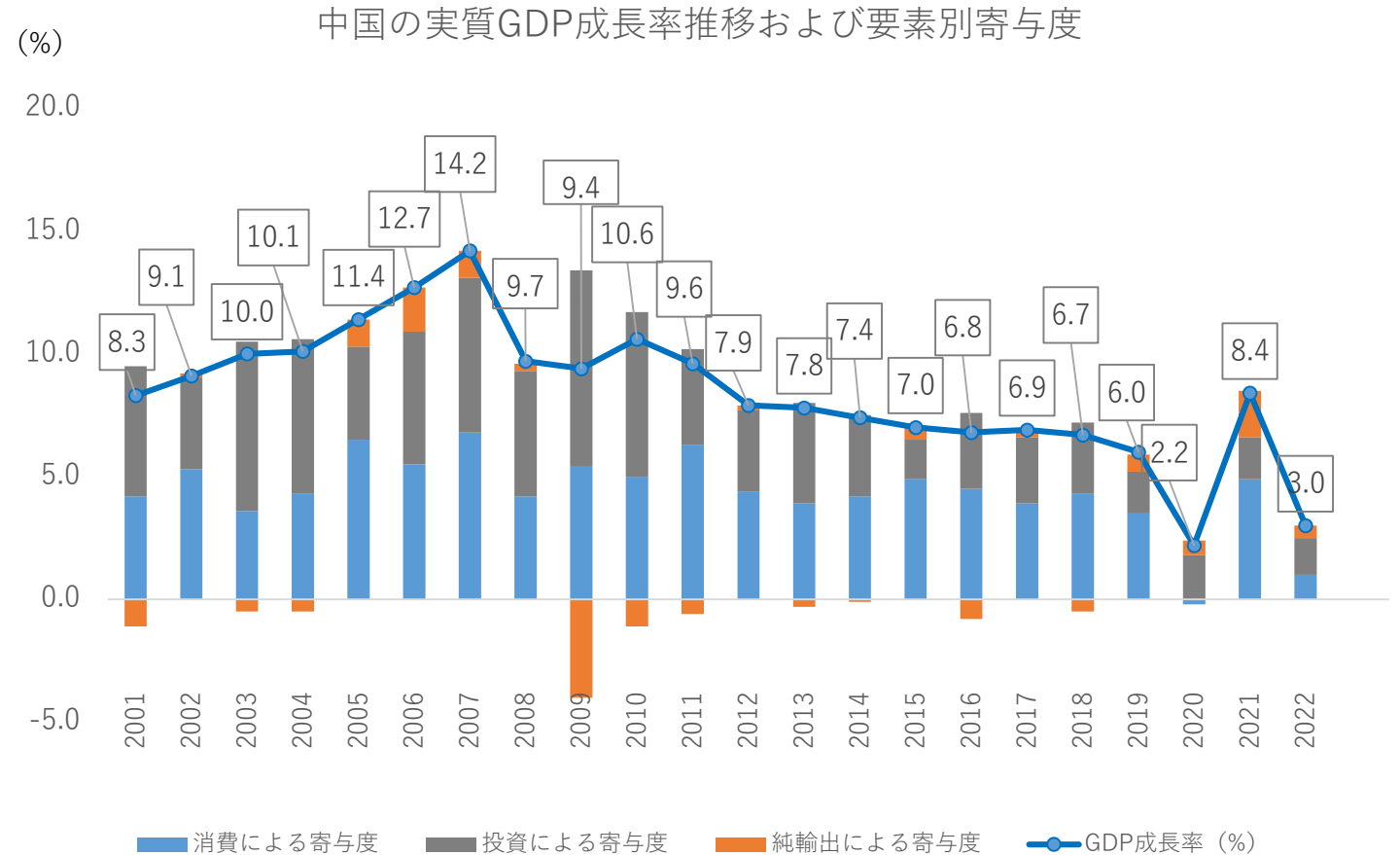
新潟県立大学北東アジア研究所
准教授 李 春霞

内容

- 中国経済の動向
- 主要な経済指標
- 課題

中国経済の動向－中国のGDP成長率

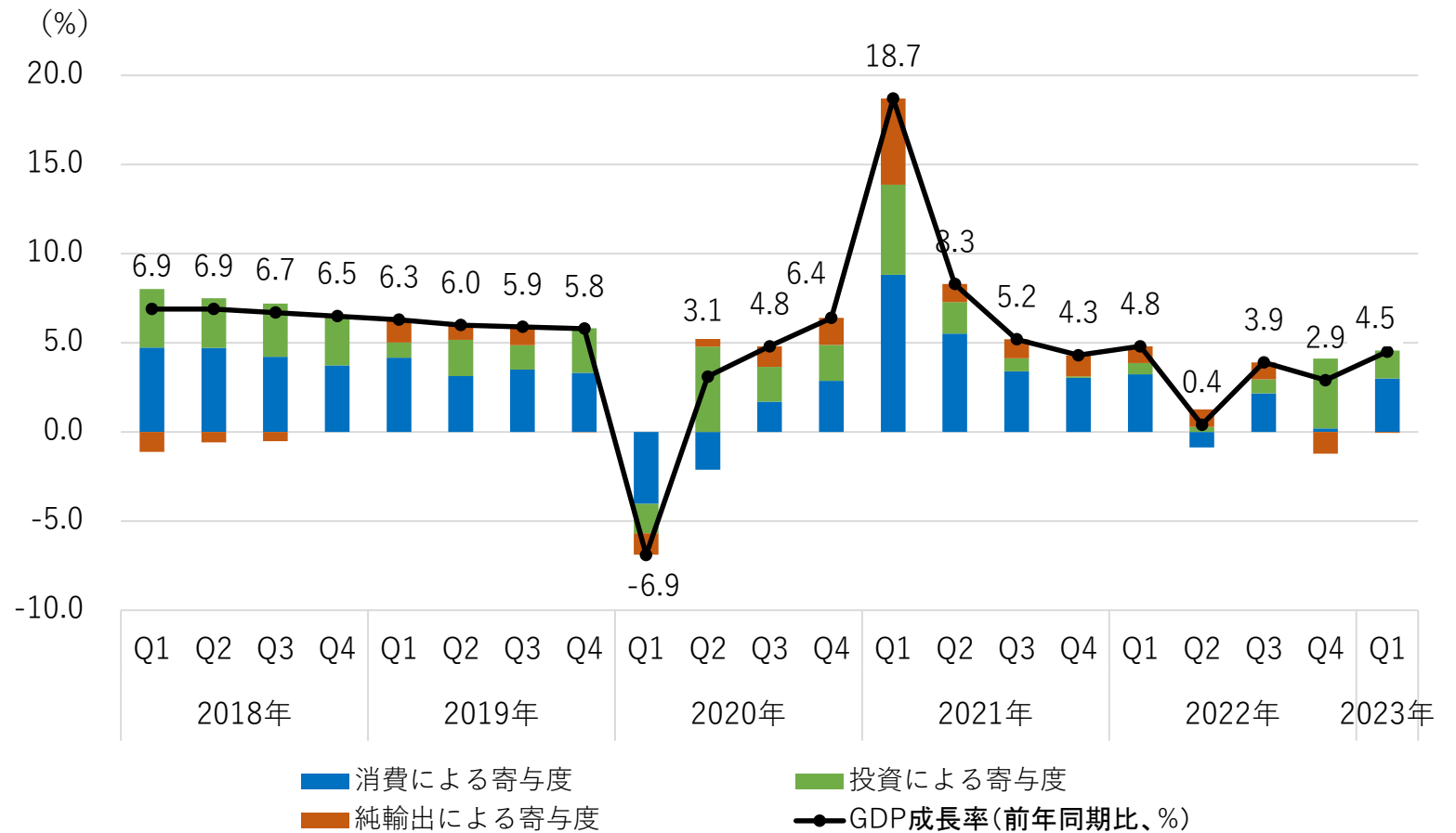
- 2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響で、経済活動が深刻な打撃を受けたが、厳しい対策を講じたためコロナ感染症を抑え込むことができ、2020年は実質国内総生産（GDP）成長率は2.3%で、プラス成長を実現できた。
- しかし、2022年に高い感染率や短い潜伏期間オミクロン変異株が流行し、「ゼロコロナ」を堅持してもコロナ感染症を抑え込むことができなかった。都市封鎖や移動制限のため、経済は打撃を受け成長率は3.0%に低下した。



出所：中国国家统计局のデータに基づき作成。

四半期ごとのGDP成長率

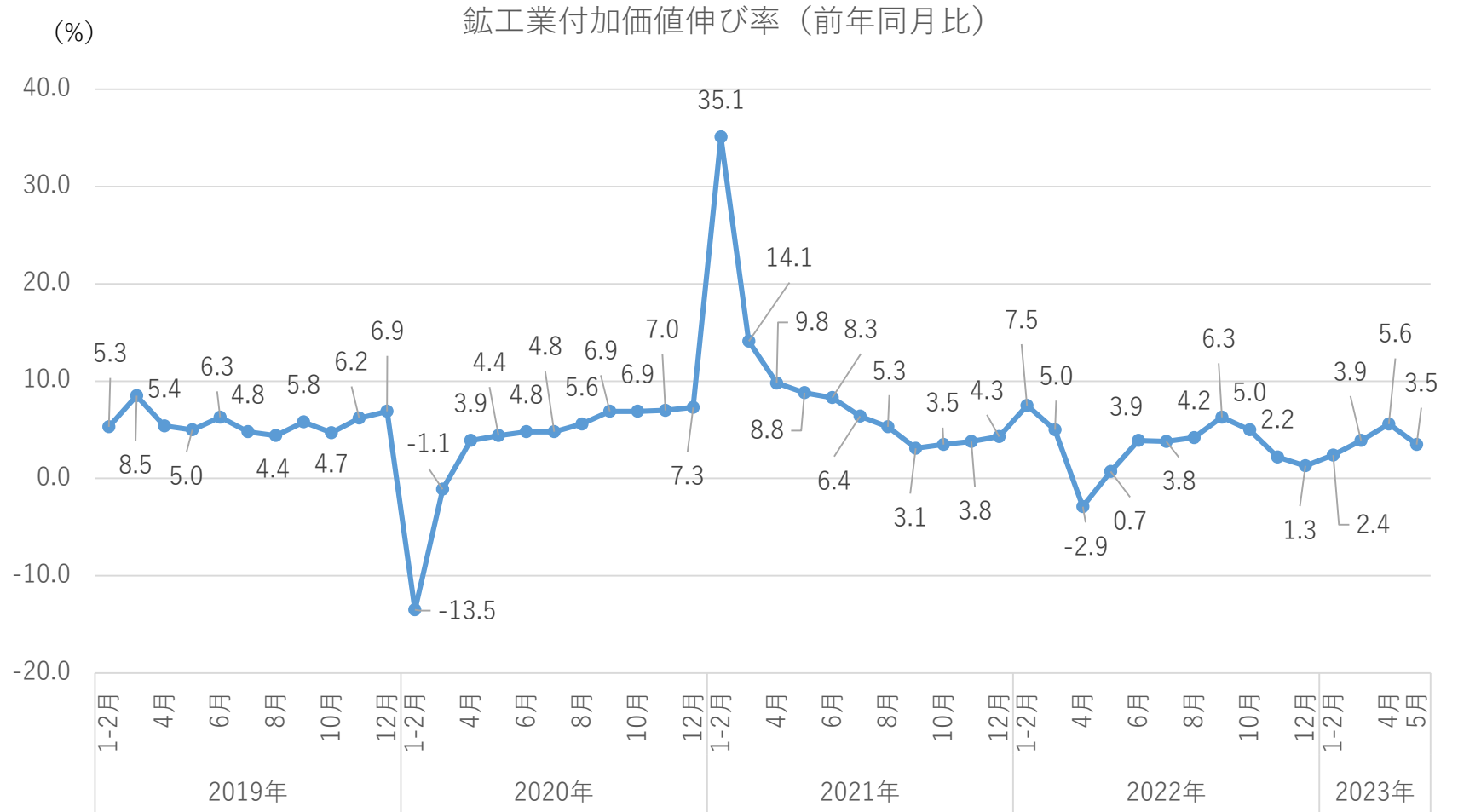
- 2020年第2四半期より経済は順調に回復し続けたが、2022年春に厳しい都市封鎖や移動制限（上海などのロックダウン）の影響を受け、2022第2四半期の実質GDP成長率はわずか0.4%であった。
- 2022年末に「ゼロコロナ」が終了したため、2023年第1四半期は消費が回復し、GDP成長率は4.5%となった。
- しかし、**輸出や投資は減速**している。



出所：中国国家统计局のデータに基づき作成。

主要な経済指標—鉱工業生産付加価値

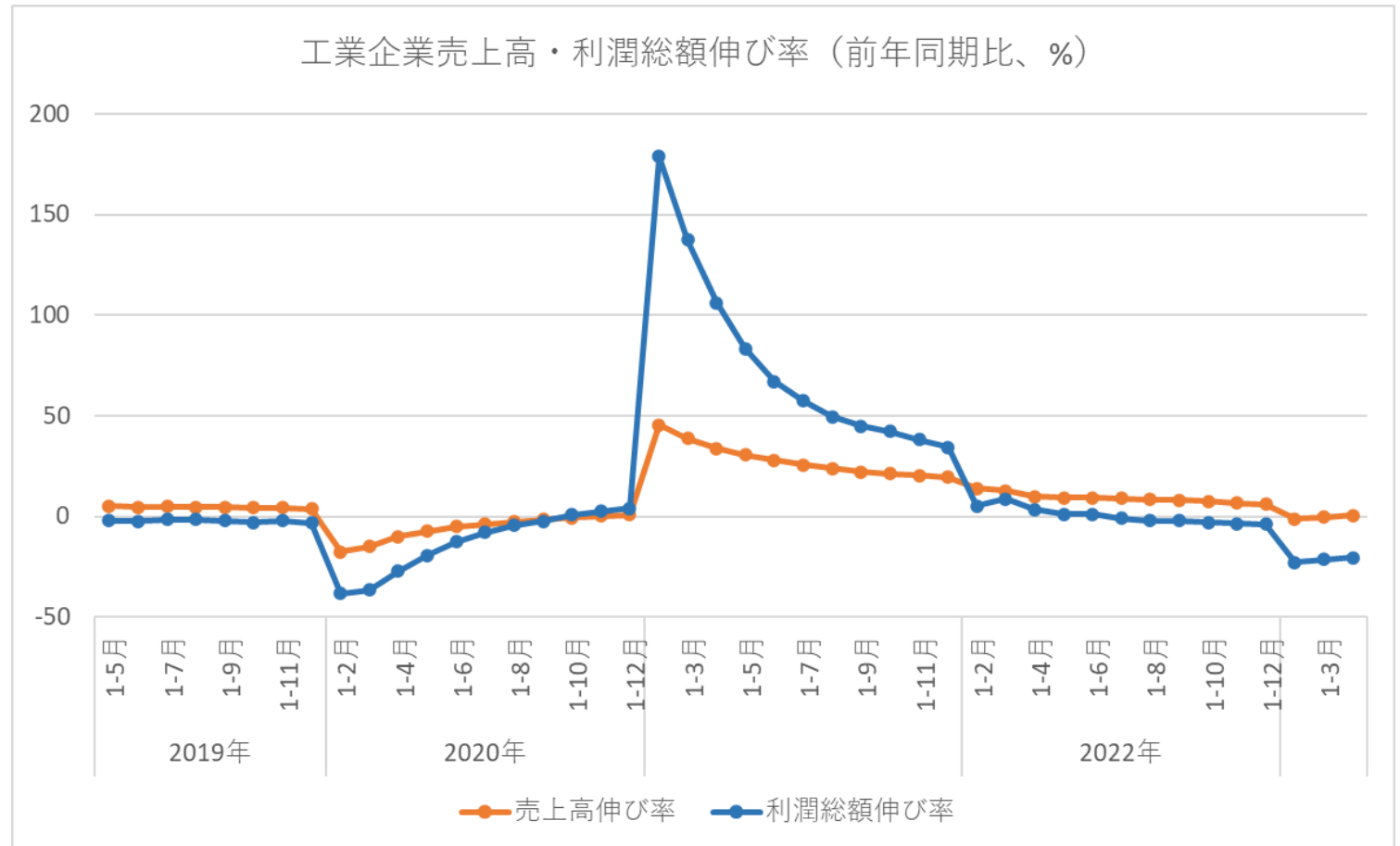
- 2020年下半期より一定規模以上鉱工業企業（本業の年間売り上げ2000万元以上）の付加価値はコロナ感染症の影響より回復したが、2022年春の都市封鎖・移動制限などによりマイナス2.9%まで落ち込んだ。
- 2022年の夏・秋に回復したが、第4四半期にはコロナ感染症の流行により再度落ち込んだ。
- 2023年より回復している。6月15日に中国国家统计局公表した最新データによれば、2023年5月の伸び率は3.5%である。2022年の低いベース値を考えると、回復の勢いは2020と2021年ほどではなかった。



出所：中国国家统计局のデータに基づき作成。

鋁工業企業利潤

- 2020年上半期、一定規模以上鋁工業企業（本業の年間売り上げ2000万元以上）の売上高と利潤総額はコロナ感染症の影響を受け、伸び率がマイナスとなったが、2020年下半期より回復した。
- 2021年に関しては、2020年のベース値は低かったため、2021年に高い伸び率を維持していた。
- 2023年は売上高と利潤総額の伸び率はマイナスに落ち込んだ（1-4月の売上高はわずか0.5%増）。

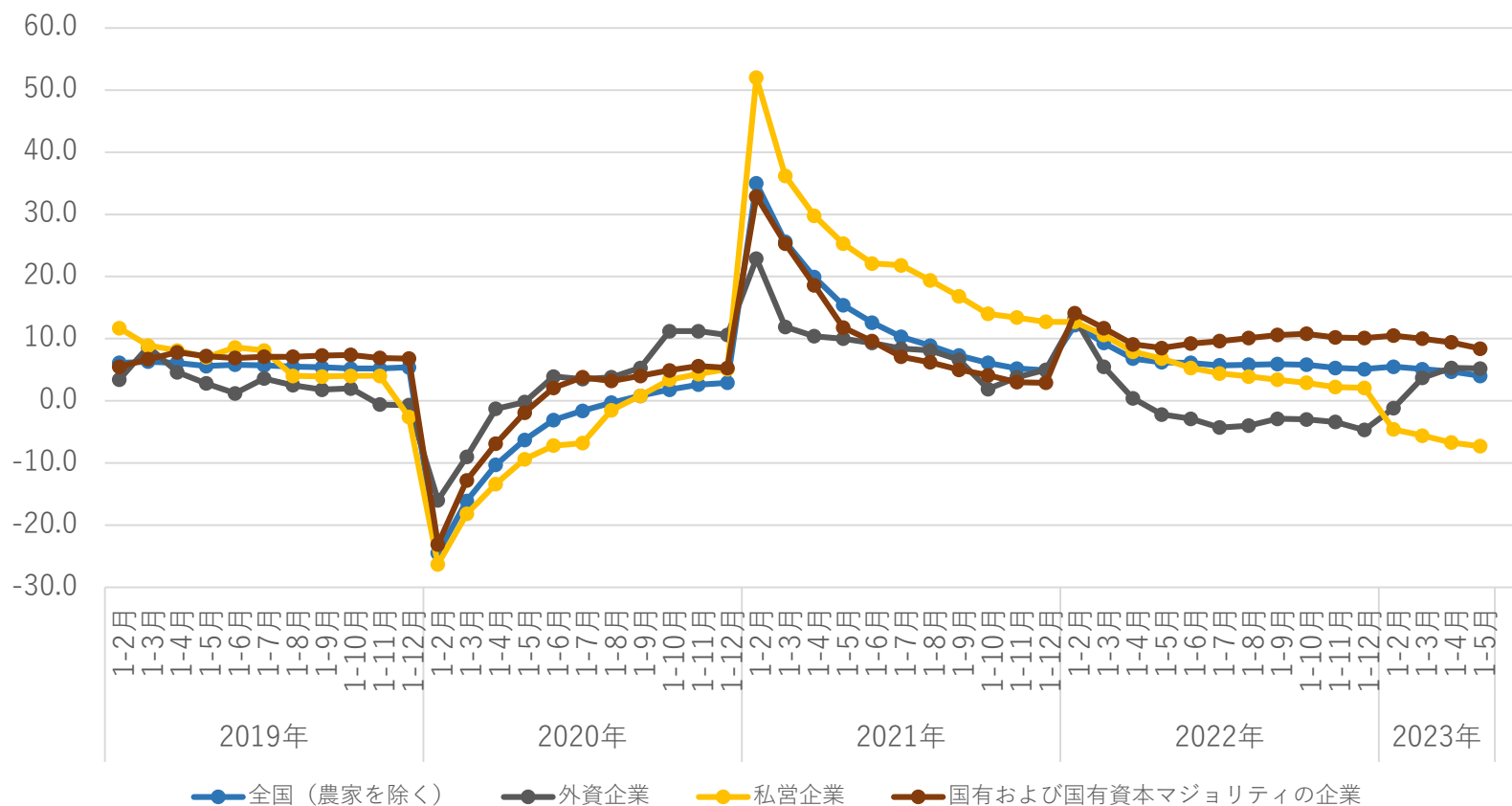


出所：中国国家统计局のデータに基づき作成。

固定資産投資

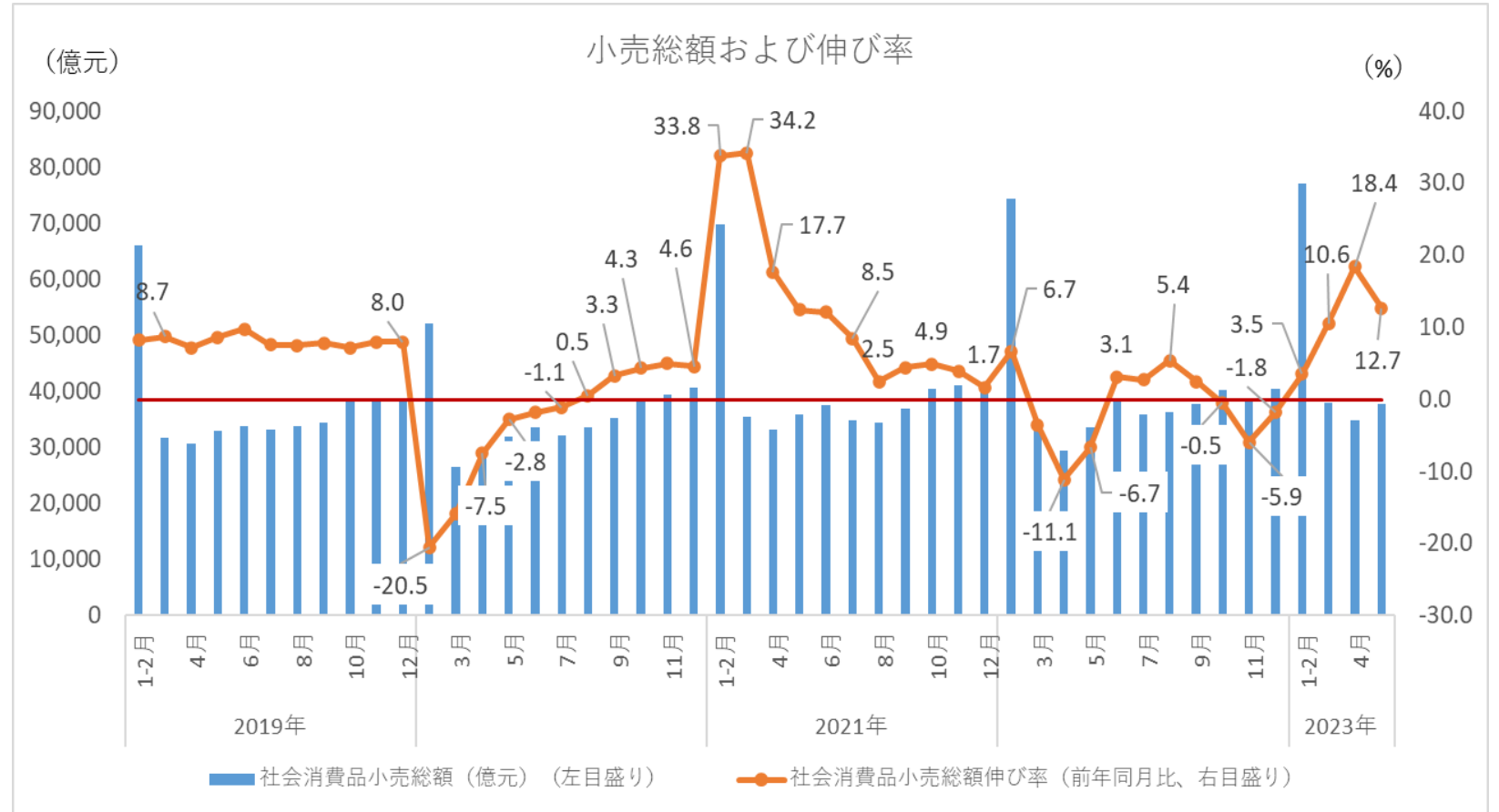
- 2023年1~2月、全国（農家を除く）の固定資産投資伸び率は5.5%であったが、1~5月は4.0%まで低下した。
- 2023年1~2月、**国有および国有資本マジョリティの企業による固定資産投資伸び率は10.5%**、1~5月は**8.4%**で、**全国平均伸び率より高かった**。
- 他方、**私営企業による固定資産投資伸び率はマイナス**である。1~2月は**-4.6%**、1~5月は**-7.3%**である。

固定資産投資伸び率（前年同期比、%）



小売総額

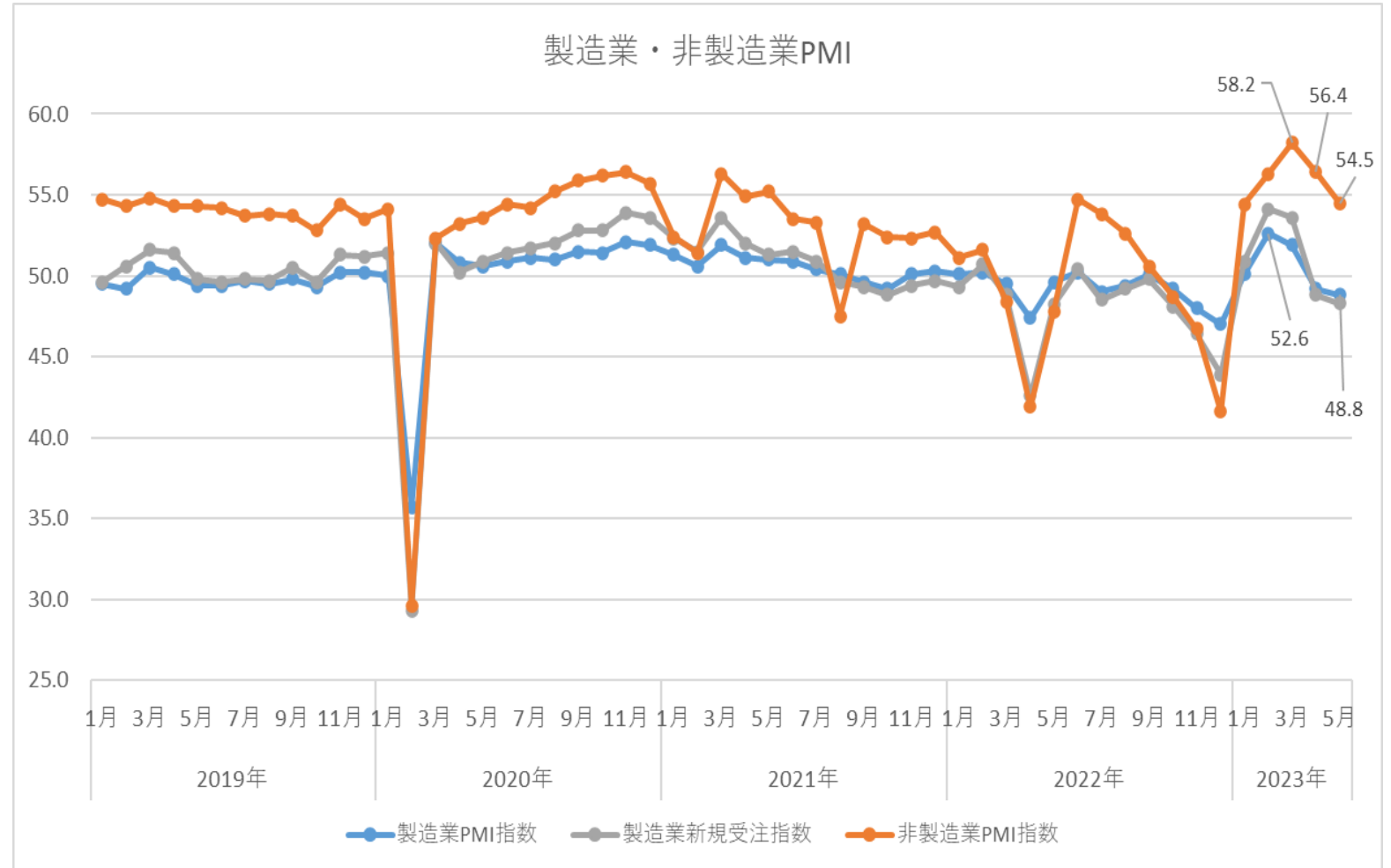
- 2022年10～12月、小売総額は移動制限の影響で2021年同期より減少した。
- 2023年よりプラスに転じ、2023年5月の小売総額は前年同月より12.7%伸びた。
- 特に5月は外食は同35.1%増加し、映画館の売り上げは4倍近く増加した。また5月のゴールデンウィークの観光売り上げは同128.9%増加した。



出所：中国国家统计局のデータに基づき作成。

PMI

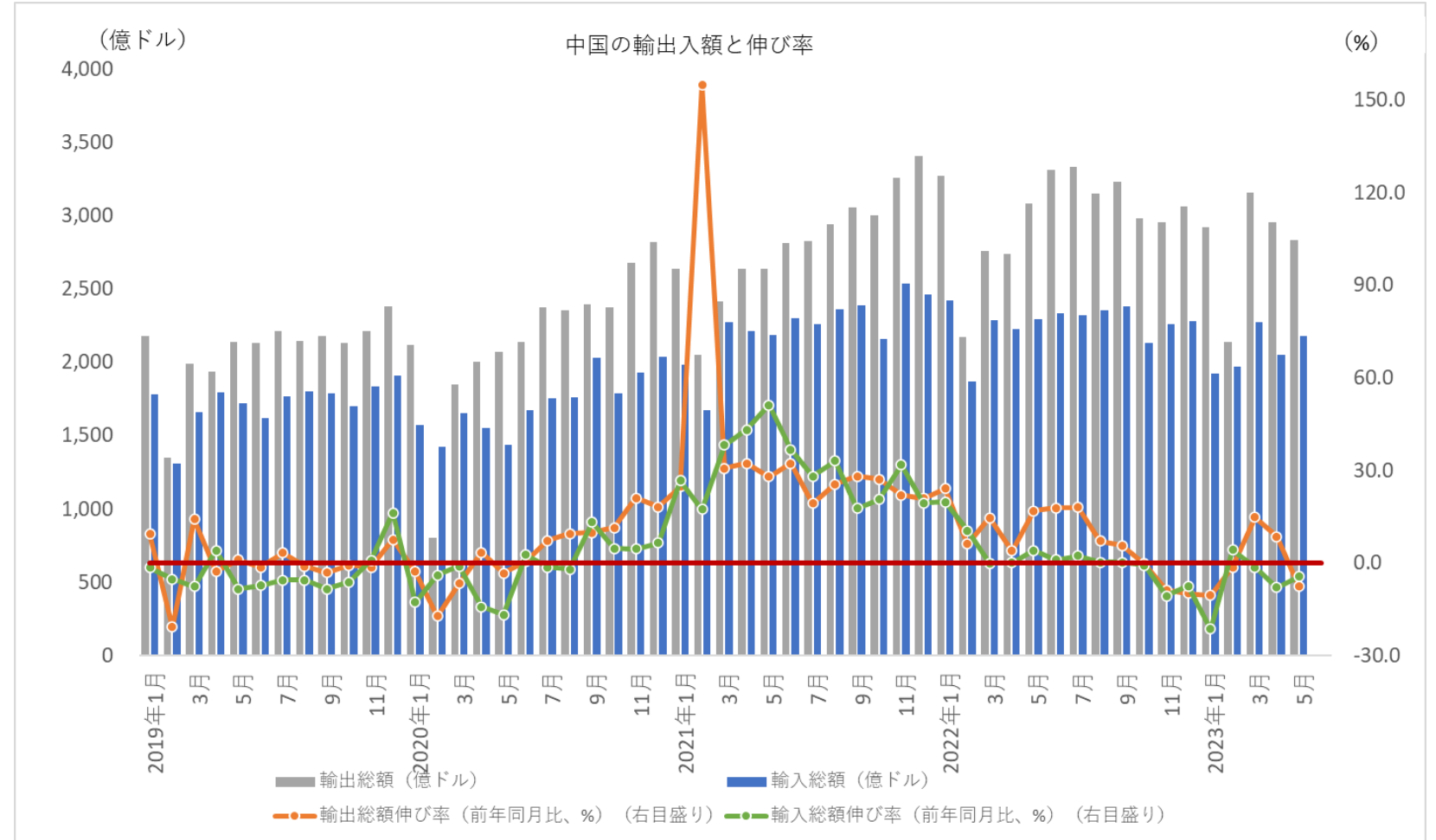
- 製造業PMI（製造業購買担当者景気指数）に関しては、2023年1月～3月は**拡大・縮小の境界50**を上回っていたが、4月に49.2になり、5月に48.8まで落ちた。
- 特に、製造業の新規受注指数は4月の48.8から5月の48.3まで低下し、**製造業は減速**している。
- 非製造業PMI（非製造業商務活動指数）は2023年以來54以上の値を維持している。「ゼロコロナ」の活動制限で**大きく落ち込んでいた消費（商品、外食や観光など）は回復がよく、経済成長をけん引**している。



出所：中国国家统计局のデータに基づき作成。

中国の貿易

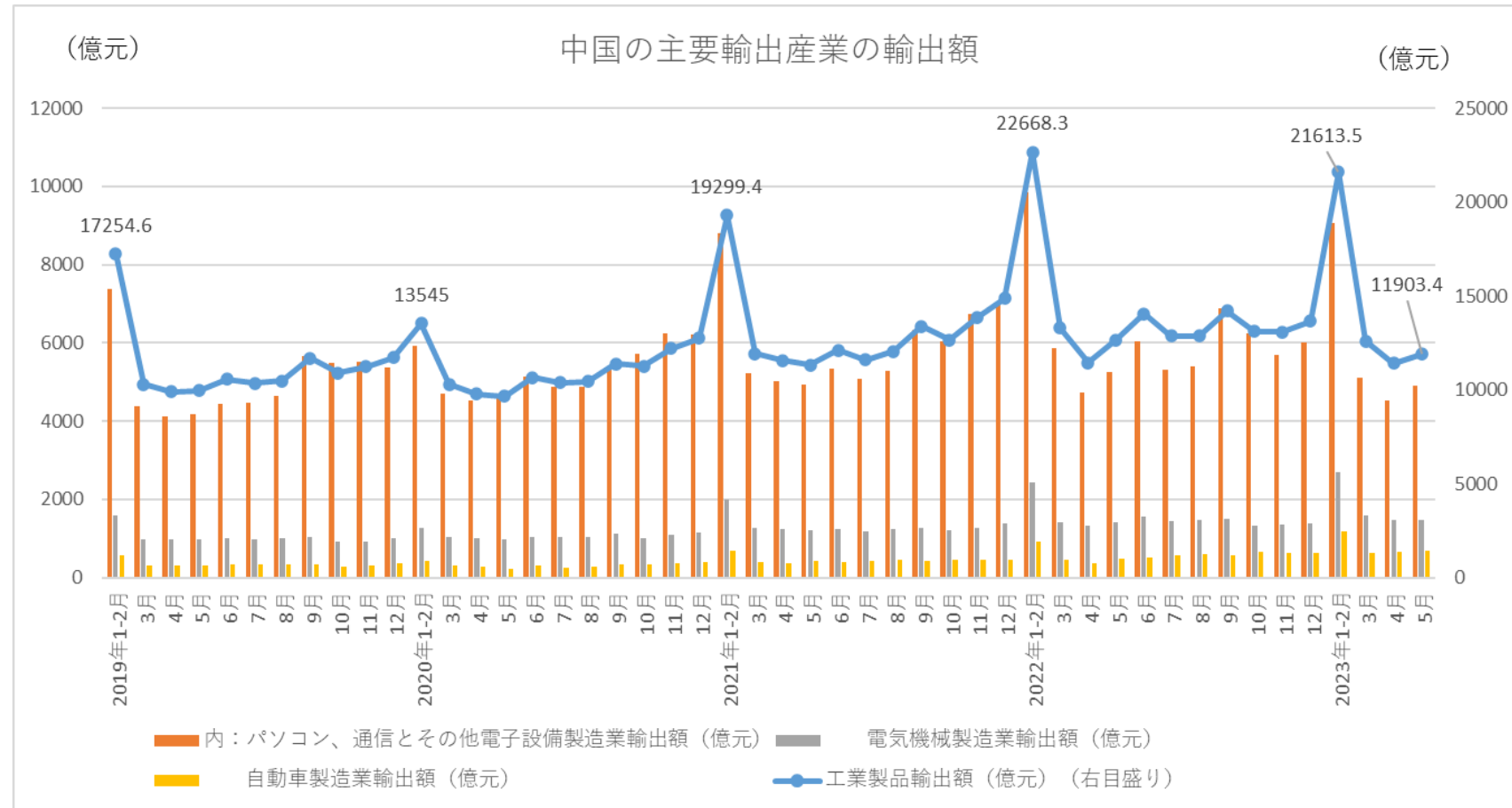
- 2023年5月、中国の貨物輸出額は人民元建てでは1兆9492億元で、前年同月比0.8%減少した。輸入は1兆4968億元で同2.3%増加した。
- しかし、米ドル建てでは、5月の輸出は前年同月より7.5%減少、輸入は4.5%減少した。
- 輸出の鈍化によって、経済は下押しされる。



出所：中国国家统计局のデータ（元データは中国税関総署）に基づき作成。

中国の工業製品および主要輸出産業の輸出額

- 2023年工業製品の輸出額は2022年同期より減少した。
- 主要な輸出産業を見てみると、2023年、パソコン、通信とその他電子設備製造業輸出額は2022年より減少した。
- 電気機械製造業の輸出は2022年より若干増加し、自動車製造業の輸出は2022年より増加した。



出所：中国国家统计局のデータ（元データは中国税関総署）に基づき作成。

中国の工業製品および主要輸出産業の輸出額

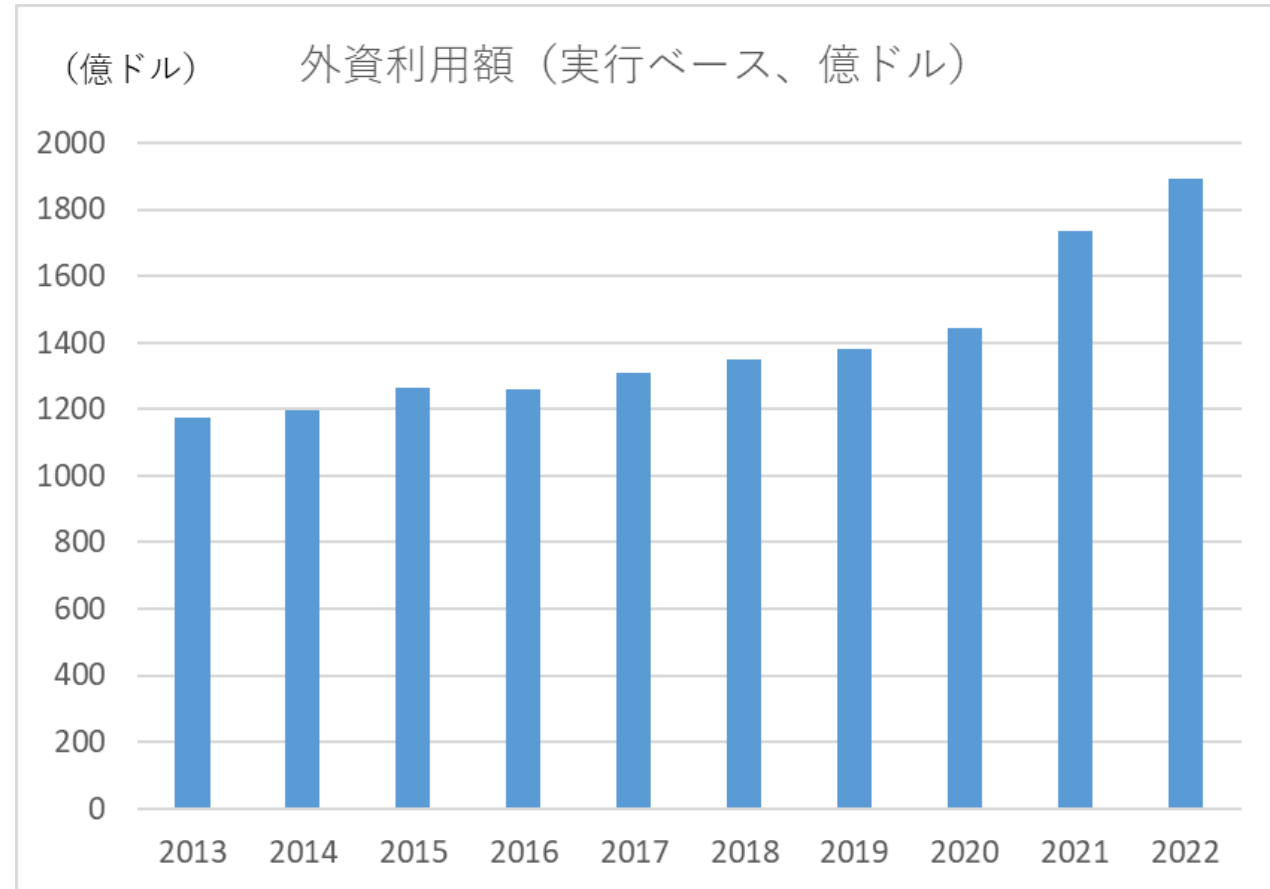
- パソコン、通信とその他電子設備製造業輸出額が減少した原因：
- 2020年に発生したコロナ感染症により、パソコンや通信機器への需要は急増したが、2023年にその需要は落ち着いた。
- パソコンやスマホメーカーの東南アジアへの移転

	2022年				2023年			
	1-2月合計	3月	4月	5月	1-2月合計	3月	4月	5月
工業製品輸出額（億元）	22,668	13,311	11,441	12,673	21,614	12,596	11,413	11,903
内：パソコン、通信とその他電子設備製造業輸出額（億元）	9,838	5,865	4,727	5,246	9,059	5,110	4,531	4,918
電気機械製造業輸出額（億元）	2,425	1,425	1,318	1,416	2,687	1,579	1,479	1,479
自動車製造業輸出額（億元）	929	444	353	485	1,188	638	656	696

出所：中国国家统计局のデータ（元データは中国税関総署）に基づき作成。

対内直接投資

- 中国商務部によれば、2022年に対内（対中）直接投資額（実行ベース、銀行・証券除く）は1891.3億ドルで前年比8%増となった。
- うち、ハイテク産業は同28.3%増加した。うち電子と通信設備製造業は同56.8%増、科学技術成果転化サービス業は同35%増、デジタルビジネス業は同21.3%増で、高い成長率を示している。



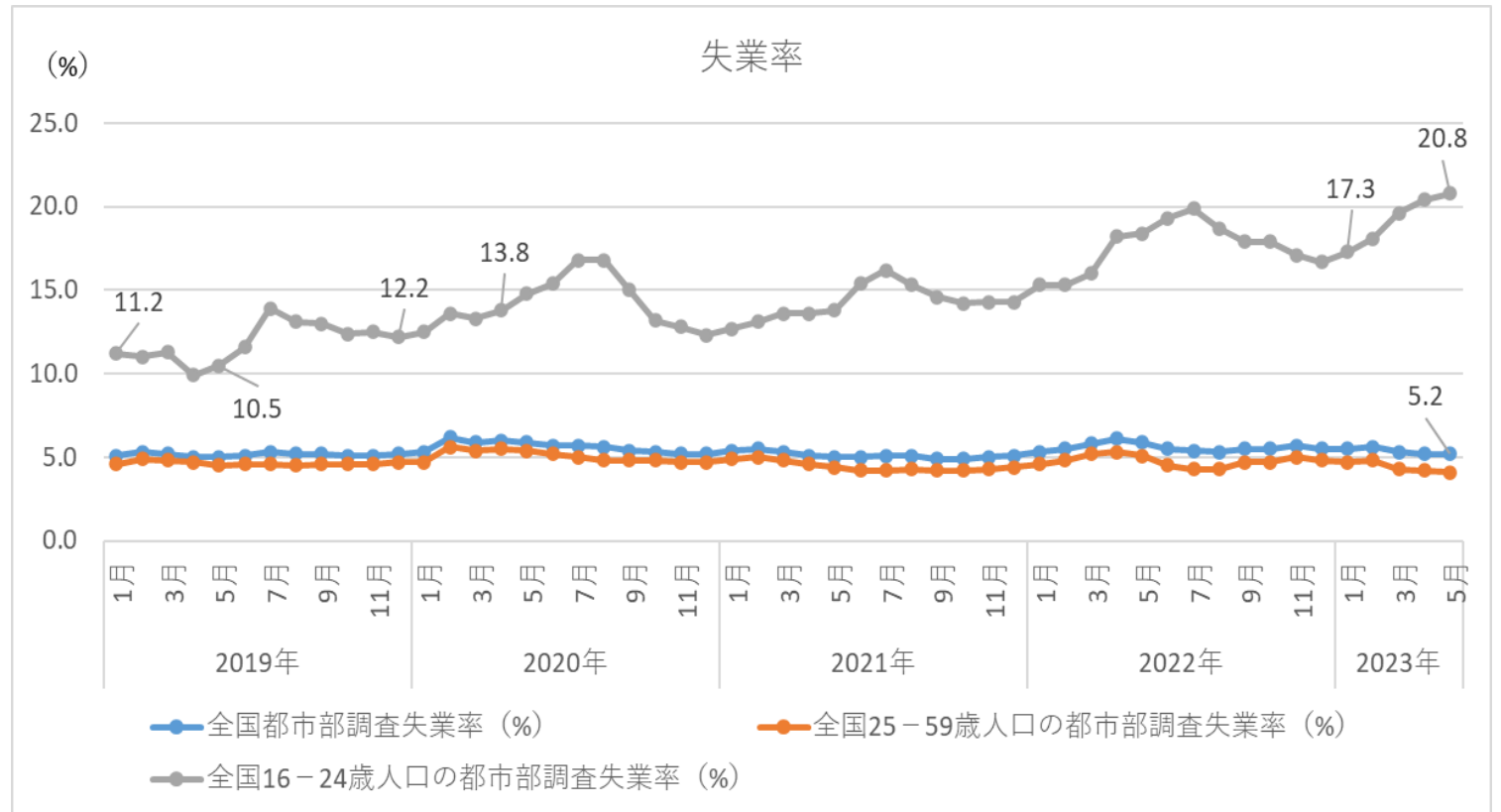
出所：中国商務部。

課題

- 若者の失業率
- 米中対立に伴うリスク

若者の失業率

- 中国の全国都市部調査失業率は2020年コロナ発生した当初と2022年春の都市封鎖の時を除き、安定的である。2023年1月に5.5%、5月に5.2%である。
- しかし、16~24歳の人口の失業率は上昇している。2023年1月にすでに17.3%の高い水準になったが、5月に20.8%まで上昇した。
- 中国統計局によれば、5月に16~24歳人口はおよそ9600万人で、そのうちの多くは在學生で就職する必要がない。就職する必要がある人数は3300万人で、うち600万人はまだ仕事を決まっていない。
- ただ、就業人口の調査では、週1時間以上仕事があれば有職者とカウントされる。つまり、実際の失業率は公開した調査データよりも高い可能性がある。
- 大学院へ進学する学生が増加。
- 若者が就職できないと、社会不安定リスクにもなりうる。



出所：中国国家统计局のデータに基づき作成。

欧米からの直接投資の減速

- 中国への外国直接投資総額は増加しているが、主に香港からの投資増加によるものである。
- 日本からの投資は減少していないが、欧州・北米（主にアメリカ）からの直接投資は減速。

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
外国直接投資利用額（実行ベース、億ドル）	1,175.8	1,195.6	1,262.7	1,260.0	1,310.4	1,349.7	1,381.3	1,443.7	1,734.8	1,891.3
アジアからの直接投資	946.7	986.5	1,041.6	988.3	1,091.9	1,070.1	1,168.9	1,240.3	1,536.4	
内：香港からの直接投資	734.0	812.7	863.9	814.7	945.1	899.2	963.0	1,057.9	1,317.6	1,372.4
内：日本からの直接投資	70.6	43.3	31.9	31.0	32.6	38.0	37.2	33.7	39.1	46.1
欧州からの直接投資	68.9	66.9	69.0	94.3	88.4	111.9	80.7	74.7	71.2	
内：イギリスからの直接投資	3.9	7.4	5.0	13.5	10.0	24.8	8.6	9.8	12.0	16.0
内：ドイツからの直接投資	20.8	20.7	15.6	27.1	15.4	36.7	16.6	13.5	16.8	25.7
北米からの直接投資	40.8	32.6	30.4	31.0	42.9	51.5	34.1	26.8	27.9	
内：アメリカからの直接投資	28.2	23.7	20.9	23.9	26.5	26.9	26.9	23.0	24.7	22.1

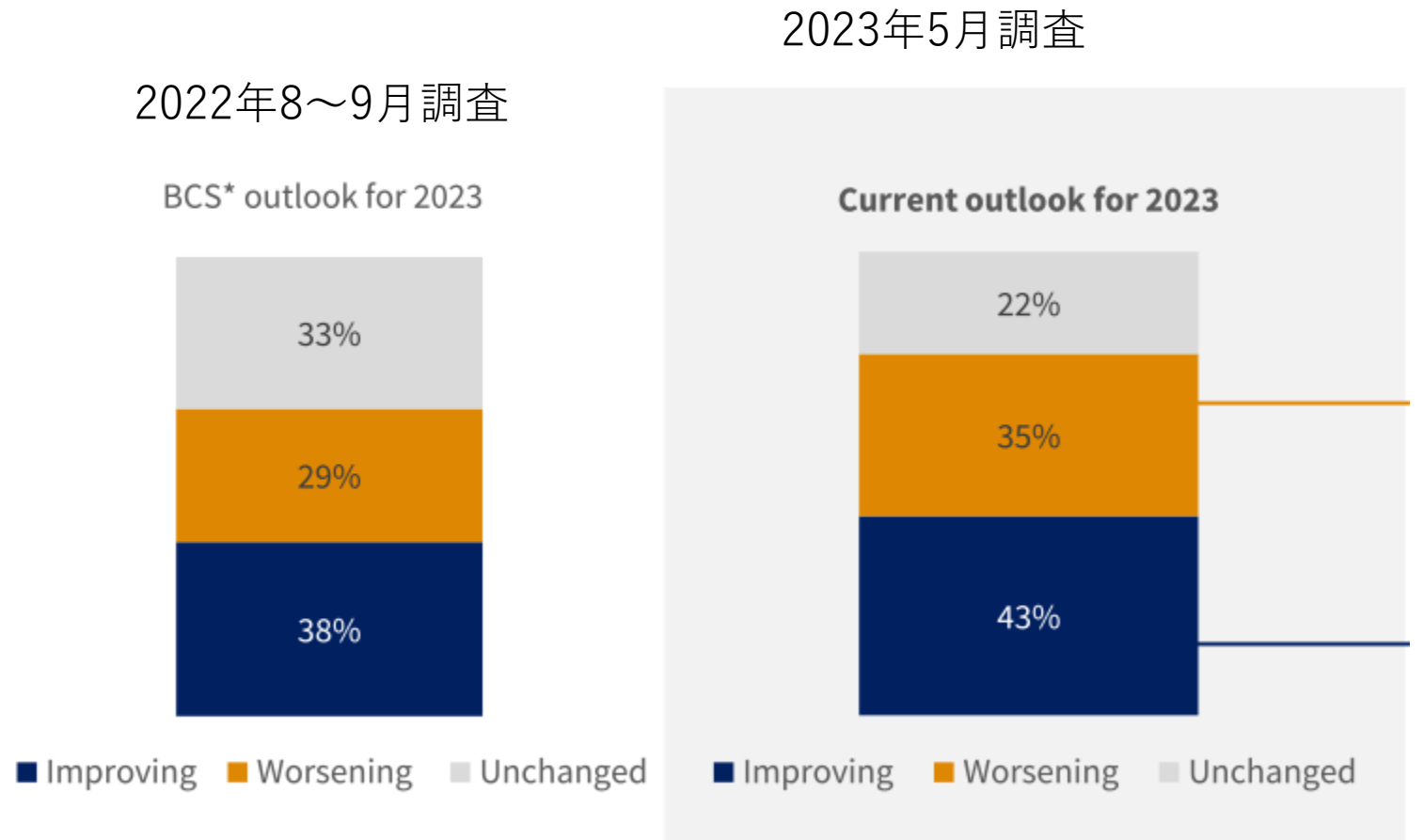
注：香港からの直接投資は、「香港企業」だけではなく、中国本土の企業を含めて世界各地の企業が香港を経由して中国に投資している投資額である。

欧米からの直接投資の減速（続き）

- JETROが2023年5月に公開したレポートによれば、欧米企業の対中投資意欲は減速している。
- ジェトロが中国を含む各国・地域の日本企業の現地法人を対象に実施した「**2022年度 海外進出日系企業実態調査**」（2022年度は8月22日～9月21日実施。中国の有効回答企業数720社）によると、在中国日系企業のうち今後1～2年の中国での事業展開の方向性について「**拡大**」と回答した割合は**33.4%**だった。2021年度調査の40.9%から7.5ポイント低下し。ただし、「**縮小**」は**4.9%**、「**第三国（地域）へ移転・撤退**」が**1.4%**と、両者を合わせた比率（**6.3%**）は**2.5ポイントの上昇にとどまり**、「**現状維持**」が**5.1ポイント増の60.3%**となっている。
- **中国米国商会のアンケート**（「China Business Climate Survey Report」2023年版。2022年10月中旬～11月中旬にかけて会員企業319社に対して行った調査）では、グローバルな投資計画での中国の重要性について、「**第1の目的地**」とした企業は**14%**（前年比8ポイント減）、「**上位3位に入る目的地**」は**31%**（7ポイント減）といずれも減少し、両者を合わせた割合は調査開始以来で初めて**50%**を下回った。
- また、**2023年の中国での投資計画**について、「**投資拡大計画なし**」が**46%**（17ポイント増）と大幅に増加した。中国外への生産・調達の移転について、「**計画はない**」が**74%**（9ポイント減）で最大だったが、「**検討しているがまだ具体的な行動は取っていない**」が**12%**（5ポイント増）、「**移転に向けたプロセスを開始済み**」が**12%**（5ポイント増）。
- **移転を検討、もしくは既に移転した理由**については、「**リスク管理**」が**60%**（40ポイント増）、「**新型コロナウイルス防疫措置**」が**57%**（40ポイント増）といずれも大幅に増加した。同時に、「**米中貿易摩擦**」が**43%**（14ポイント増）、「**地政学的緊張の上昇**」が**20%**（選択肢として初）。
- 資料：JETRO（2023年5月26日）「日本企業は対中投資に及び腰か？ーデータからみる各国の対中投資」
（<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2023/a453545c93fb987c.html>）

欧米からの直接投資の減速（続き）

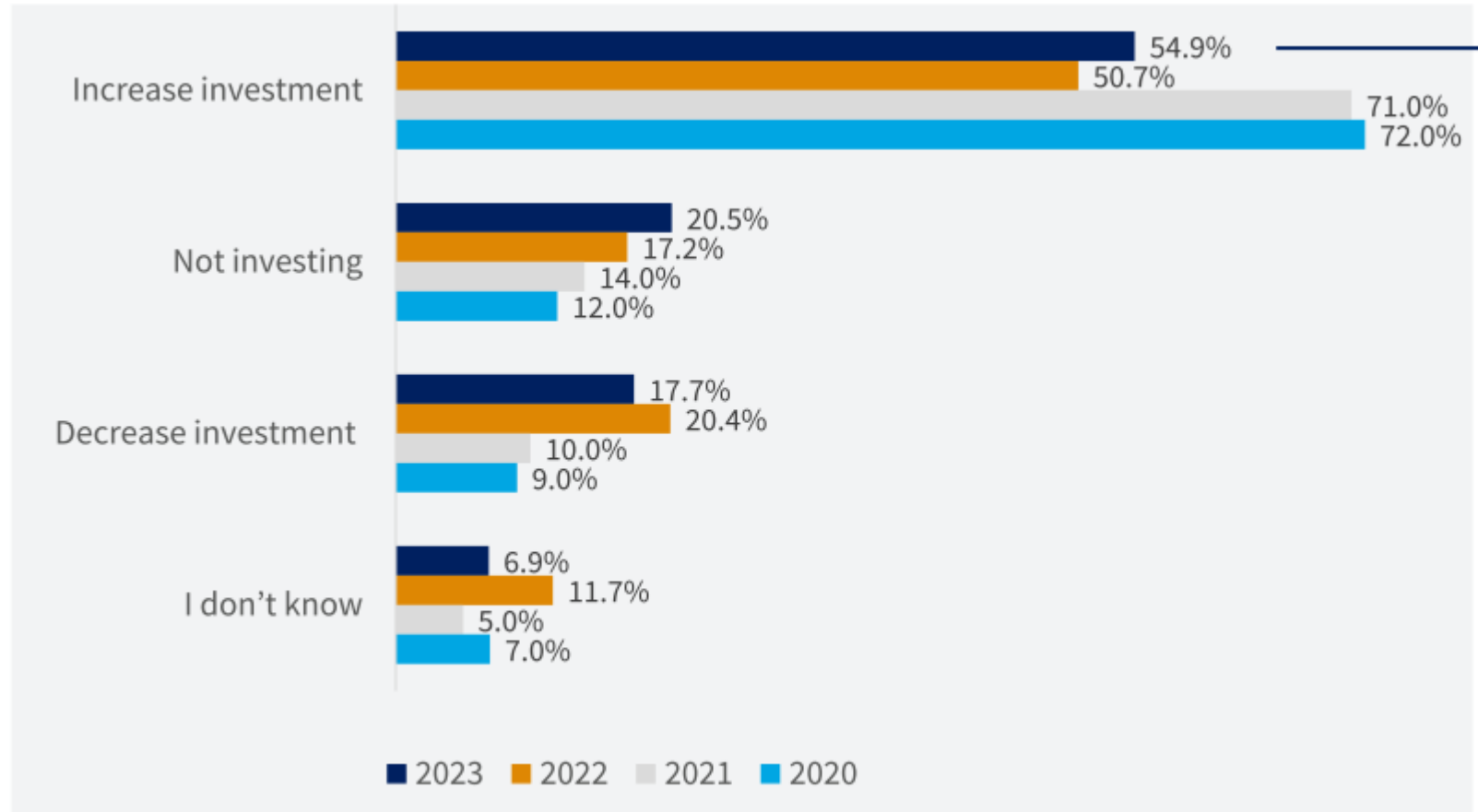
- **中国ドイツ商会は** 2022年8～9月、2023年5月に調査を行った。
- 2023年の中国ビジネス展望の設問に対して、「改善」と答えた企業は43%で、2022年の38%より5ポイント高くなったが、「悪化」と答えた企業は35%で2022年の29%よりも高くなった。



資料：中国ドイツ商会（2023年6月8日）「GERMAN CHAMBER POST-COVID FLASH SURVEY-Business Outlook Restrained By Market」

欧米からの直接投資の減速（続き）

- これからの2年、中国への投資を増やすかの設問に対して、「増加」と答えた企業は54.9%で、2022年の50.7%より高く、「減少」と答えた企業は17.7%で2022年の20.4%よりも低くなった。
- 改善はみられている。



資料：中国ドイツ商会（2023年6月8日）「GERMAN CHAMBER POST-COVID FLASH SURVEY-Business Outlook Restrained By Market

中国の貿易減速は日本への影響

- 2023年5月、中国の貿易は鈍化したが、商品分類別の輸出を見ると、日本への輸出は大きな変化がない。
- 中国対日本輸出の4割は機械類及び電気機器であって、2023年1～5月は前年同期とは変わっていない。一方、繊維製品（10～15%の割合）は減少した。
- 対ASEANは（カンボジア、ラオス、ブルネイを除く7か国）輸出総額が増加、機械類及び電気機器は2023年1～5月は前年同期比2%減少、卑金属は12%増加。
- 対ロシア輸出は増加、主に機械類及び電気機器と輸送機器（自動車）は増加。
- 対アメリカ輸出は繊維製品は前年同期比16%減少、プラスチック製品は前年同期比18%減少、雑貨（家具等）は前年同期比17%減少、機械類及び電気機器は前年同期比13%減少した。東南アジアへの移転とコロナ特需の落ち着きによるものだと考えられる。

2021～2023年1～5月中国の輸入

- 日本からの輸入：卑金属のうち、鉄鋼は2022年より減少
- 輸送機器（および部品）は全体の6～9%を占めている。2023年1～5月は前年同期比46%減少
- 機械類及び電気機器は全体の47～48%を占めている。2023年1～5月は前年同期比15%減少
- 韓国からの輸入の6割は機械類及び電気機器、2023年1～5月は前年同期比31%減少
- ASEAN（カンボジア、ラオス、ブルネイを除く7か国）からの輸入の4割前後は機械類及び電気機器、2023年1～5月は前年同期比20%減少
- ロシアからの輸入の7割は鉱物燃料・原油、2023年1～5月は前年同期比21%増加

ご清聴ありがとうございました。
ございました。